#2311

ハヤチネウスユキソウに会いたい

早池峰山

実施日　２００７年７月２８日～２９日　（土～日）
天　候　一日目　曇／雨　二日目　曇
リーダー　涌井　良明
参加者　吉田伊勢次郎、友近洋子、若村勝昭、服部美千代、小池述史、福島政幸、涌井良明、鈴木恵美子　計八名

費　用　交通費　東京－新花巻２４，５８０円（正規運賃）　タクシー４，０００円　シャトルバス　１，２００円
宿泊費　７，３５０円
費用　計　３７，１３０円

コースタイム　一日目　新花巻駅（一〇時七分～一〇分タクシー）小田越（十一時一五分～二五分）薬師岳迄８００ｍ地点（一一時五〇分～十二時二〇分昼食）薬師岳（十三時～五分）小田越（十四時一六分～五〇分シャトルバス）峰南荘（一五時一五分）　（泊）

二日目　峰南荘（六時二分シャトルバス）河原坊（六時二〇分～六時五五分朝食）沢上部・頭垢離（七時五七分～八時五分）打石（九時～一〇分）早池峰山頂（九時五一分～一〇時二〇分）五合目・ご金蔵下（十一時二〇分～三〇分）小田越（十二時三一分～十三時四〇分タクシー）新花巻駅（一四時四〇分～十五時二一分）

梅雨明けの夏空を目論んで満を持した予定のつもりでしたが、人知が起した異常気象で青空は、僅かしか見せてはくれませんでしたが、キャッチコピーのハヤチネウスユキソウは・・・薄曇りの新花巻駅から、ジャンボタクシーで早池峰山登山口の一つ、小田越を目指す、一時間程で山奥の感のある小田越着、雲の切れ目から日差しはあるが黒い雲に今にも負けそうである。また、風がゴーゴーと唸っている。

今日の足馴らし目的である、早池峰山の対面の薬師岳への登山道に入る。木道から樹林帯の登りになる、木々を揺らす風音は大きく、山頂部がちょっと心配。行程の半分ほど上った所で昼食後、すっかり黒い雲に覆われてしまった中を登る、１，５５０ｍ付近で森林限界を抜ける、早池峰山の山頂付近は既にガスの中に沈んでいる。大きな山容も白いベールに包まれ霞んでいくように見える。その代りに風の流れも変わりつつあるようで、思ったほど強風ではなくなってきた。辺りは高山帯の雰囲気となり、名残の石楠花が揺れる岩混じりの道を登り切ると頂稜に達した。その先３００ｍ程で薬師岳の山頂があった。四囲はガスの中、風もあり寒い位だ、写真だけ撮ってそうそうに引き返す。樹林帯に入る手前で大粒の雨になり、雨具を着ける。小田越下山後、宿へのシャトルバスを待つ間、止んでいた雨が再び強くなる。宿舎の『峰南荘』では以外にも二〇畳以上ある広間を独占、快適だった。

二日目、宿舎前から六時二分時発のシャトルバスで河原坊（カワラノボウ）へ、宿の豪華？朝食弁当を食べて、早池峰山の正面コースに入る。コメガモリ沢に沿った緩やかな登りになり、何回か徒渉をしつつ歩く、ポツポツと花も見られ花の名山の一端をみせ始める。と、これがハヤチネウスユキソウかも、と、思われると花に遭遇、でもあまりに何気なく現れたので一同半信半疑、本当にそう？？、てな調子である。一時間程で沢も急激に立ち上る詰め近くなる、頭垢離と呼ばれる辺りで、ここから道は一気に急登になる、登るにつれ岩道の様相になってくる、急な登りを慰める様に花の種類も数も増してくる、先程は不当な扱い？を受けてしまったハヤチネウスユキソウもあちこちに見られるようになる、決して派手な花ではないが、白く整った姿はやはり美しく、ヨ

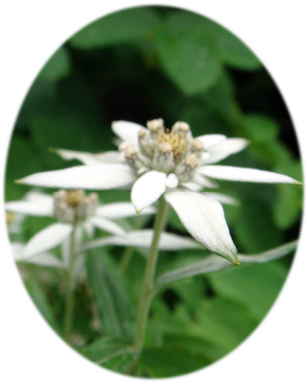
ーロッパでは自生のエーデルワイスが殆ど見られなくなってしまった今では世界的にも貴重な存在である。いつまでも訪れる人を癒し続けてくれることを願いたい。高度が上がるにつれ周りのガスも濃くなり、道は岩角を掴んで登る急登が続く、花の名山に惹かれて来たものの、岩だらけの急な登りに話がチガーウ、勿論当会メンバーの声ではない。御座走、打石、などの名前がついた岩場も足元にして、急登が終わると唐突に山頂に飛び出した。かなりの広さがある頂で一角には大きく立派な営業小屋顔負けの避難小屋もある。早池峰神社の社もあり、周囲に奉納された剱などが見られる。残念ながら期待の眺望は全く無し、北上山地の山並を眺めるのは次回に持ち越しになった。三〇分程のんびりして、小屋前から小田越への下山道に入る。

この小田越ルートの山頂直下は素晴らしい道である、シラビソやハイマツなど高山帯の雰囲気の中、道の両側にはお花畑が広がり、ついつい足も止まりがちになる、これに眺めが加われば更に感激度も高かったも知れないが、この庭園風景だけでも十分満足出来るものがある。岩が多くなると八合目のポイント一枚岩のハシゴ下りに着く。上下二段あり上段は二列、下段は一列のハシゴが架かり、混雑時は渋滞しそうだが、今日は登りの一パーティとの行き違いだけで問題なく通過、岩だらけの下りを行く、五合目の御金蔵(オカネグラ)を過ぎた辺りで小休止、時折ガスが薄くなり明るさが増したりするが、眺望を楽しむ程には白いベールを開いてはくれない。それでも、昨日登った薬師岳の意外に大きく端正な姿が見え隠れして、瞬間、短い歓声が漏れることもある。山で眺望が得られるというのはいかに貴重で素晴らしいことかを再認識させられた時でもある。

道が樹林帯になると傾斜も緩くなり、特有の甘い香りを感じつつ、のんびりと下って行き、木道が現れると僅かで昨日の薬師岳登山口もある小田越に下山した。予約したタクシーまで一時間半あったが、遅めの昼食をとり、山の余韻に浸っているうちに、早めに到着したタクシーで早池峰山を後にした。

其の頃には、昨日同様、大粒のにわか雨が降り出していた。

天候は今一つだったが、キャッチのハヤチネウスユキソウを始め多くの花に出会えた山行で、『花の山・早池峰山』は偽りなしであった。

次は眺め付きで別コース を歩いてみたい気がする山である。

（記・涌井　良明）